

take free
¥0

Magazine of COMBAT LIFE announcing to public

volume.
COMBAT
LIFE ★★



歌という伝え方

COMBAT LIFEのすべて。

さて、表紙に惹かれてこの冊子を取ってほみたものの、一体COMBAT LIFEって何？新しい戦闘ゲーム？表紙の二人は何者？という疑問もあって当然。まずこの冊子の主人公であるCOMBAT LIFE(コンバットライフ)について説明しよう。その前にこの冊子がただの友達同士の遊び感覚で発行されているのではなくCOMBAT LIFEも作り手も生半端な気持ちで作り上げていないということを知っておいてもらいたい。

歌という伝え方

仕事帰りや放課後。いつものように駅に向かう道の途中。イベントをやっているわけでもなければ政治家が歌いながら街頭演説をしているわけでもないがどこからともなく心地のいい音色と歌声が聞こえてくる。音の鳴る方へ行ってみるとスポットライトもなく客席もない場所で行く人達に歌を届けている光景が広がっている。ライブハウスやクラブがステージではなく、街の路上をステージにしているアーティスト。いわゆる路上アーティストである。路上アーティストといっても歌う者もいればダンスをする者もいる。絵を売る者もいれば似顔絵を描く者もいる。一人でも多くの人になにか伝えたい。自分を表現したい。そして夢を叶えたい。そんな様々な想いを街に、人に届けている人達のことである。「COMBAT LIFE(コンバットライフ)」は、歌という表現方法で路上に飛び出した今や数多い路上アーティストの中の一組である。

岡本護20歳、村林竜吾19歳(2006年2月現在)の二人からなるCOMBAT LIFE。出会いというものはいつも不思議なもので必然だったと思うもの。彼らの出会いもどこか変わっていた。2002年。当時岡本護16歳、村林竜吾15歳は同じ私立鈴鹿高校に通っていた。地元が隣町だったことから毎朝通学する電車の車内でよく二人は一緒になっていた。お互い面識はなかったが意識し合っていた。そんなもどかしい日々がかれこれ一年近く流れたある日、岡本護は行動に出た。「靴間違えてもうた」

革靴指定だった鈴鹿高校。指定外の靴を履いていた岡本護はそんな話題でこのもどかしい一年を振り切った。そんな話題でもお互いに意識し合っていた二人にはやっと開かれた機会だった。そんな些細な出来事から二人の距離は一気に縮まった。お互いの共通点(ギターで歌を歌うこと)を知り、一緒に遊ぶようになり、そして高校の文化祭に一緒に出演するまでの仲となった。その時生まれたのが「COMBAT LIFE」なのである。まるで恥ずかしがり屋の恋物語のような結成までの軌跡。恋物語と違うのはその後も別れることなく、COMBAT LIFEの二人は共に夢を追いかけるようになったこと。踊ったり描いたりじゃない。歌で、詩を書いてメロディーに乗せて、自分達の想いを伝えるために。一人のためじゃない。みんなに、様々な人に、自分達の想いを伝えるために。一人じゃない。二人で、COMBAT LIFEで、自分達の想いを伝えるために。COMBAT LIFEは歌という伝え方でみんなの心に響くよう歌を歌っていきたくと決意した。「この道ならこれからもやってゆける」そんな想いを歌にした彼らの向いている先は常に明るいう未来だ。COMBAT LIFEは今もどこかであなたの心に響く歌を唄っている。



夢の花

作詞・村林竜吾 作曲・村林竜吾

ありふれたことばかりの日々が

止まることなく流れている

これでいいかと問いたとしても 答えはない

新しいこと 難しいこと そんなことを考えても

なんだか胸が苦しくなっていく感じ

思いきって手を伸ばして 進むんだ

決めたんだから やるしかないよ

この道なら これからもやってゆける

そんな気がした

咲かせよう 夢の花 夢の花

夢見たものを 信じたこと

この手の中に 感じたから

これが 確かな道しるべだと思ふ

思いきって 手を伸ばして 進むんだ

決めたんだから やるしかないよ

この道なら これからもやってゆける

そんな気がした

咲かせよう 夢の花 夢の花





M A M O R U

■ 岡本 護

生年月日：1985年12月21日

血液型：O

出身地：津市白山町

趣味：買い物

特技：ギター

座右の銘：一生懸命

好きな歌手：YUI、SOFFet

好きな曲：スーツケース(クールドライ
ブ)

好きな映画：ディズニー系、ジブリ系

好きな物：電音と歌っている時間

長所：人見知りしないところ

短所：周りのことを見落としやすいと
ころ尊敬する人：親、世の中で努力してい
る人

電音の印象：しっかり者



R Y U G O

■ 村林 電音

生年月日：1986年11月13日

血液型：A

出身地：津市一志町

趣味：カラオケ、スケボー

特技：バスケット

座右の銘：無我夢中

好きな歌手：ELLEGARDEN

好きな曲：虹(ELLEGARDEN)

好きな映画：ジブリシリーズ

好きな物：歌っている時の独特の空間

長所：自分の夢を持っているところ

短所：考え込みやすいところ

尊敬する人：親

護の印象：明るくておもしろい

#03.

FASHION

COMBAT LIFEの歌声と共に注目されているのは二人のファッションセンスである。幼げな顔に添えられたセンス溢れるファッションはCOMBAT LIFEの象徴となっている。今回はそのファッションにスポットを当ててみよう。

MAMORU
OKAMOTO
FASHION



村林竜吾

「ズッカのジャケットとストールとadidasの靴の合わせ技。好きなブランドはadidasとHOMELESSとPSMDとSAG。よく行く服屋は最近古着ばかりだからセカンドストリートかな」

RYUGO
MURABAYASHI
FASHION



岡本護

「撮影日のファッションポイントは動きやすさとラフさを考えた服装です。好きなブランドは特になし。古着全般が好きでよく着ます。よく行く服屋はバイト先のセカンドストリートという店です」

- | | | |
|------|----|---|
| 2003 | 05 | COMBAT LIFE結成 |
| | 06 | 路上ライブ開始 |
| | 07 | 津SATYライブ出演 |
| | 08 | 星のライブ出演(白山町) |
| | 10 | 鈴鹿高校文化祭出演 |
| | 11 | 三重の高校生情報誌YOUTH!(MBC)掲載 |
| | 11 | 津BASS-1ライブ出演 |
| | 12 | 津SATYライブ出演 |
| 2004 | 03 | 津ケーブルテレビ出演 |
| | 03 | 1st DEMO CD 『声』 完成 |
| | 03 | HEART HEAT FESTIVAL!! 2004出演(津) |
| | 04 | 村林竜吾・岡本護ソロ活動開始 |
| | 07 | HEART HEAT FESTIVAL!! 2004 in SUMMER出演(津) |
| | 08 | cafe d's actオープニングイベント出演(松阪) |
| | 08 | cafeイジリンマライブ出演(津) |
| | 10 | 津まつりライズミュージックライブ出演 |
| | 10 | BARオープニングイベントライブ出演(津) |
| 2005 | 03 | HEART HEAT FESTIVAL!! 2005出演(津) |
| | 04 | COMBAT LIFE再始動 |
| | 07 | 2nd DEMO CD 『2ケツ』 完成 |
| | 08 | COMBAT LIFE feat. SAG-T完成 |
| | 12 | NPO団体クリスマスイベント出演(大阪) |
| 2006 | 02 | フリーマーケットin四日市ドーム出演 |
| | | …様々なライブの間も津駅や四日市駅での路上ライブは
定期的に実施 |

タウンページ

作詞・コンバットライフ 作曲・岡本護

歩き慣れたこのデコボコの道は僕らの足跡が深く付いてる
少しの不安や傷つくことがあっても
へこたれない強さ持ってる

朝はおいしい空気 夜は綺麗な星空

ここにいる自分がやけにちっぽけで
なのに気持ちよくて

ここから眺める星はいつも僕の力になってるんだ

この町が教えてくれた季節の足跡をたどって

今僕らも足跡を残して

そして明日の僕に誓うんだ

今日よりも強くなれますようにと

ふと見上げると空一面に広がる星達がい

また願いを込めた

町並みの景色がこの首と重なってく

風が吹き抜けるたびに

様々な風景を心に焼きつけ

今僕はページをめくる

この町が教えてくれた季節の足跡をたどって

今僕らも足跡を残してそして明日の僕に誓うんだ

今日よりも強くなれますようにと

独りじめしたくてこんなにも空は言くて

僕らも大きな心持ちたいと思った

変わる町並みずっと変わらない良さ

僕らも同じように生きてゆきたい

前に進もう



2人は一体何を想い、人々の前で歌っているのか。曲に込められた想い。相方に込められた想い。路上に込められた想い。そして2人の目指すものとは。それぞれをひも解いていこう。



Q：路上ライブをやってきて学んだことは何ですか？

岡本護(以下M)：やっぱり一番大きかったのはいろんな人達の温かみややさしさやと思います。いろんな人と繋がりを持てたことで自分達の中で変わったことかな。あと自分自身を知れたこと。路上ライブは僕たちにとって幸せの欠片みたいなもの。一つ一つその欠片を集めていくことによってそれがおっきな幸せに繋がるんやと思います。もちろん一つ一つの幸せの欠片は僕たちの今のすべての源になっているんですけどね。

村林竜吾(以下R)：自分の気持ちを人に伝えることの難しさや俺らの気持ちりが歌で伝わった時の言葉には出来ないほどの嬉しさです。

Q：初めての路上と今の路上で一番変わった点はどこですか？

M：歌への思い、いろんな人に僕たちの歌を聞いてもらいたいという気持ちが半端なく強くなったということです。100%気持ちを伝えたいということ。

R：初めての路上ライブの時は、やっぱり緊張してたし「挑戦」という気持ちで、練習した曲を披露するって感じやったけど、今は、今まで聴いてくれた人たちのおかげで自分が歌が大好きでこれが自分のやり方・生き方って思えて、自信がついたり、その人たちやたくさんの人たちに自分の気持ちを歌で聴いてもらいたいって気持ちが物凄く強くなっています。

Q：COMBAT LIFEの曲を知らない人にCOMBAT LIFEの曲の説明をしたらどんなふうに表現しますか？

R：曲調はさまざまなジャンルが混ざったような純アコースティックではなく、新鋭アコースティックと呼べる。内容は恋愛を初めてとするが恋愛だけでなく夢や生き方などいろんな気持ちを歌っています。

M：そうですね、主に僕たちの曲は実体験を基にして作っています。説明するとしたら、誰もが聞いて自分とおきかえて共感してもらえたらいいと思います。

Q：相方に対する印象は？

R：可愛いオシャシ。音楽活動にあたっては特別に年の違いの意識はないけど、なんだかんだいってやっぱり兄貴的存在かな。
M：相方に対する印象は僕の隣になくてはならないものです。相方は僕と2人で1つみたいなものだと思います。それだけ存在が大きいんです。歌の面に関しても通じ合う面があり、時には異なる意見をぶつけ合ったりしてます。それは竜吾やからできることだと思います。

Q：なぜこの相方と夢を共にしたんですか？

M：この相方とやから夢を共にしたんだと思います。最初に僕がグループを組んだ相方も竜吾、初めて路上ライブをした時にいた相方も竜吾。『僕とギターと竜吾』みたいな感じに思うんです。関わった時間が長かったし、お互い成長できました。だから夢を共にしようと決意したんです。

Q：5年後のCOMBAT LIFEの理想像は？

M：今よりもっとたくさんの人の耳にいつも入ってくるような、そんなふうにご歌を歌っていたいです。そして大舞台でたくさんの人に僕達のごを屈けてていたいとおもっています。
R：日本中のみんなが俺らのごを口ずさんでくれていること。

Q：メジャーに対する想いを教えてください。

R：自分の表現方法を歌としている俺にとって、少しでも多くの人に自分の考えや想いを伝えたい気持ちが強いから、多くの人に歌を聴いてもらいたい気持ちが強い。

M：半端なくおっきいものです。よりたくさんのひと達に僕たちの歌を聞いてもらえる舞台。そう思います。そのステージに上がれるようこれからも今の気持ちを忘れず、むしろ大きくして頑張っていきたいとおもいます。

Q：これからどんな歌を歌っていききたいですか？

M：僕達が感じて思った事、みんなに伝えたい事を歌詞に綴り、たくさんの人に共感してもらえるように歌ってけたらなと思います。

R：みんなに伝えたい自分の気持ちやみんなが共感できるようなことを歌っていきたい。

Q：歌っている時一番大切にしていることは何ですか？

M：僕達のごが聞いてくれる人に100%伝わるよう気持ちを100%込めることです。歌のストーリーや場面を想像しながら歌ったりしてます。聞く人がその歌の情景とかを思い浮かべてくれたらすごい嬉しいです。

R：伝えたい気持ちを強く持ってみんなに届かせること。

Q：最後に決意表明をお願いします。

M：COMBAT LIFEとは『戦う日々、人生』という意味。山あり谷ありの日々を乗り越えていこうとする力や努力が戦う日々だと思えます。だからこの言葉の意味を知って歌を聞いてもらったそれが少しでもこれから頑張る糧になったら僕たちは幸せです。これからも僕達はずっとずっとCOMBAT LIFE。

R：歌は自分が唯一自信を持っていること。その歌に伝えたい想いや夢など自分たちを全部集めて走りまわります。』





■2006.01.22 in 近鉄四日市駅前

夕方から小雪の混じる冷たく寒い日となった三重県四日市市。この日は日曜日。四日市にはたくさんの方々が集い、ショッピングセンター、商店街等でショッピングを楽しむ。夕方になり、帰宅しようと四日市駅に向かう若者達がふと立ち止まり、あるものに目がいく。その目線の先には寒い中ギターを弾きながら歌う同じ若者が2人。COMBAT LIFEが路上の真っ最中。軽やかで優しいギターの音色と2人のやわらかくも力強い歌声が四日市駅前で響き渡る。興味を持った若者達はCOMBAT LIFEの前に座り、聴き入った。

歌う曲はすべてオリジナル。その曲はどれも素晴らしく、人々の胸の奥になにが訴えかけるような曲ばかり。1曲が終わることにお客さんからはあたたかい拍手が2人に送られる。演奏の合間、2人は聴いてくれているお客さんにCOMBAT LIFEの紹介フライヤーを配る。そしてカイロも配る心遣い。しかし、温かいカイロよりも2人の奏でるオリジナルの歌がじっくり体に染み込んでくる。冷たい風に負けない温かいメロディー。村林の優しい歌声に岡本の優しい歌声が重なる。

2人の歌う口からは白い吐息が広がる。スポットライトもなければ立派なステージがあるわけでもない。それでも2人はお客さんの心に響く歌を届けようと一生懸命歌っている。決して格好をつけず飾らない2人の等身大が路上ライブに表れている。現在(2006年1月)、毎週水曜日津駅地下通路、毎週日曜日近鉄四日市駅前で定期的に路上ライブを行っている。これから活動視野を広げ、様々な場所で路上ライブを実施していく予定。街でCOMBAT LIFEを見かけたら一度足を止めて聴いてほしい。きっと自分の中で変わることがあるはず。

▼ライブ情報

<http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=COMBATLIFE>

COMBATLIFEの二人に出会ったのはまたま路上ライブをやっている近くを通りかかって、二人の声に導かれるように足が向いていた、そしたらもう座って聴き入ってしまった。歌を聴くにづれこの二人にだんだん興味が湧いてきて、毎週二人の歌を聴きに行くようになった。二人の雰囲気ですごく気に入った。そしてとても親しみやすく、二人とはすぐに仲良くなれた。二人の歌は内に溜まっていた悩みやらは全て吹き飛ばしてくれた。今まで何度も**勇気**や**希望**をもらってきた。音楽で生きているという大きな夢を持っている。とても難しいことかもしれないが、二人の目は**本気**だ。そんな熱い夢を持っている二人のことをとても尊敬しているし、**むちゃくちゃ大好き**だ。いろんなものを背負う二人の夢とともに叶えたいと強く思った。そしてまだこの二人のことを知らない人や二人の歌をまだ聴いたことのない人たちに是非聴いてほしい！

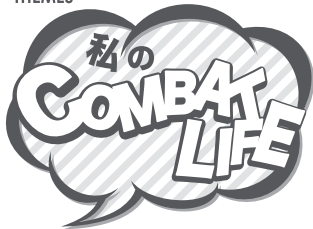
山本功生(19)
大学生
三重県津市在住

COMBATLIFE。それは突然の出会いに驚くほど自然にあたしの生活の中に入ってきたもの。あたしの心に新しい風が吹き込んだ。本当に突然。新鮮な風が。未完成だけれど未完成だからこそもっと知りたいと思うもの。

存在やオリジナル曲すべてが**同じ目線**で**世界が広がって**いて、でもそれがめちゃくちゃにすごいと思ったり。でもどこかあたしと似ていて。その世界に自然と惹かれていった。こんなにも**純粹に応援したくなった**歌い手は初めてです。大き過ぎる夢だからこそ叶えてほしい。サポートしていきたい。未完成な2人の可能性は無限大。いつまでも自分の夢にまっすぐ突き進んでいてほしい。完成した時も楽しみだけ**今必死に頑張っている姿も素敵**。人間らしいところが好きです。これからもあたしにとってみんなにとってない物足りない素敵な存在でありますように。なりますように。

小田真知子(20) 調理学校助教授 大阪府大阪市在住

THEMES



技術面はまだ荒削りであるが、「**独自性**」と「**伝える力**」をもっており、磨けば光る原石に見える。

レコーディングのサポートをさせてもらったが、ハーモニーが美しく、同じ曲を何度も聴かないといけないうマスタリングの作業が、いつになく快適であった。

何よりも、努力では身につかない「**センス**」を二人共に持ち合わせていることと、その二人がこうやって巡り合って切逆拮据している様を見るのがうれしく、今後が楽しみですである。自分たちの力で道を切り開いていて欲しい。

米倉正志(35)
楽器店勤務
三重県鈴鹿市在住

人生ですごい出会いになりました。2年前に出会って、アコースティックバンドを生で聞けるのが初な私は今までにない衝撃を受けた。それはCOMBATLIFEには**癒し**があったから。いろんなバンドマンを見てかっこいいと思うことはたくさんあったけどそこに癒しはなかった。初めて見たときの地下道に響くキレイな歌声は今でもリアルに覚えている。

「歌うまで」って思ってた全然と見ていた。全然違うジャンルを好きだった自分がジャンル関係なく**曲・歌詞・に共感**出来た。そう思わせてくれたバンド。高3になって路上ライブを頻繁に見に行くようになった。冬だったのもとても寒いけどそれ以上に歌を聞きたいという気持ちが強く2時間ほどのライブはあっという間に終わってしまう。ライブが終わったあとは**切ない気持ちと暖かい気持ち**になる。

こんな気持ちにしてくれたCOMBATLIFEは私にとって近いようですごくいい存在です。

佐野充子(19) 大学生 三重県亀山市在住

2ケツ

作詞・村林竜吾 作曲・村林竜吾

いつもの街 風が吹き抜けた
夜の道 僕らかけぬけた
わざと灯りないとこめざし

僕ら二人一つになれるような気がして
ただ駆け抜けてゆく

君を後ろに乗せることに
そろそろ慣れてきて

家に帰るのもまだ早すぎる
そんな気分

少しずつ夜に染まって
なぜかわくわくするね

このままどこか寄り道しよう
そんな気分

夏の夜の気持ち良さに誘われて
とばす自転車 はしゃぐ心
止まることなく続いてゆく

君といるとこんなにも楽しいなんて
僕の夏の一番の思い出になるんだ

いつものように君は笑った
いつものように僕も笑った

目を見開いて怖がる君の手を掴んで





■ 2ケツ / 気持ちの中で / 桜と自由の木 DEMO-CD

PRICE / ¥300-

track 1 / 「2ケツ」

作詞：村林竜吾 作曲：村林竜吾

track 2 / 「気持ちの中で」

作詞：岡本護 作曲：岡本護

track 3 / 「桜と自由の木」

作詞：岡本護 作曲：岡本護

路上ライブでも絶賛発売中のデモCD。曲調の異なる3曲を収録。デモCDのため、お値段も3曲で300円とお買い得。桜と自由の木は三重県の中高一イベント『HEART HEAT FESTIVAL!! 2004』のオフィシャルテーマソングとなった。



■ COMBAT LIFE feat. SAG T-SHIRT

PRICE / ¥2,500-

COLOR / BLACK & TARCOIZ(水色系)

SIZE / M, L

各色限定10枚 (M5枚L5枚)

ストリートブランド『SAG』とのコラボレーションで生まれたグッズ。大きくCOMBAT LIFEのエンブレムが入ったインパクトある1枚。色はカッコいいブラックと夏の爽やかな空のようなターコイズの2色を用意。これを着て路上ライブに出かけよう。

■商品の通販可能

<http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=COMBATLIFE>

のメルフォームからご注文ください。



空と僕と君

作詞・岡本護 作曲・岡本護

電車の窓から見る雲景色がなんだか僕らの

これからを表してるみたいで

雲の速さは僕らにはちょうどいいくらい

移りかわる景色の奥に見えるのは青く澄んだ青空で

そこに2人ゆけたらな：なんて思いながら眺めていた

これからの2人に見える雲景色 見つめていた

2人で笑うこと 幸せなんだよ

足組みながら寄り添いながら 見つめ合ってた

そして電車は進んでく

君とこの空をずっと見てるよ

気持ち1つちゃんと繋がってたいの

嗚呼 この景色のように

幾千の出来事を信じる力に変えて

2人で未来の扉をたたいてくれるから

それから2人で歩んでくれるかな？

君とこの空をずっと見てるよ

気持ち1つちゃんと繋がってたいの

空はわかってた、僕らのこと

君との時間全部僕は忘れたくない

ずっとそばで君の空を感じてたい



EDITOR'S

一通り読んでもらって分かったかも知れない。正直に言うとCOMBAT LIFEはまだまだ駆け出しで経験も浅い。実際知名度も低く、メジャーデビューなんて夢のまた夢なのだ。ではメジャーデビューになるための基準とは一体何なのか。歌唱力、表現力等いろんな力が必要である。しかし、一番大事な要素は想いではないだろうか。今、メジャーの第一線で活躍するゆずやコブクロは路上から飛び出したメジャーアーティストだ。スタートは変わらない。そんなスポットライトの当たらぬミュージシャンが人々の心を動かした原動力は想いという力ではないだろうか。すべては想いから始まる。人の心を動かす歌を歌いたいという想いが歌唱力や表現力を鍛え、想いが形となって表れる。その想いが強いほど人は惹かれていく。COMBAT LIFEはその想いに夢のまた夢をかけた。歌で食べていくなんでほんの一握りの人しかいない。たくさんの試練が待っているだろう。たくさん転び、くじけそうになるだろう。それでも負けずに自分たちが決意し選んだ道を力強く歩んでほしい。夢への一步一步を大切に。心を動かされた僕は応援していく。どんな結果が待っているだろう。大事なものは結果ではなく、強い想いを持って歩んだ経過だ。頑張れCOMBAT LIFE。2人は無難な人生を選ばずデコボコな人生を選んだ、正にCOMBAT LIFEなのである。(羽津本)

▼COMBAT LIFE

<http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=COMBATLIFE>

▼RIPPLE GRAPHICS

フライヤー・CDジャケット等デザイン物製作承ります

<http://rippledsgn.web.fc2.com/>

volume.COMBAT LIFE 2006年2月発行

企画・編集・取材・撮影・文章/羽津本圭太

コラムライター/山本功生・小田真知子・佐野充子・米倉正志

歌詞モデル/羽田省吾・曾我梨加

デザイン/RIPPLE GRAPHICS

印刷・製本/フデビン

発行人/羽津本圭太

発行所/RIPPLE GRAPHICS

〒156-0055東京都世田谷区船橋1丁目38-21ハイム船橋105号室

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。



¥0

RR **RIPPLEGRAPHICS**

It is led to my unusual family name or, however, is, by chance, me who cannot help feeling an inevitable, mysterious connection.

web site : ripplesgn.web.fc2.com/

Copyright 2006 RIPPLE GRAPHICS all rights reserved.